平成21年8月20日発行（5月・8月・11月・2月各20日発行）　平成10年3月17日　第3種郵便物認可　定価200円

豊橋市美術博物館友の会だより

FU風伯HAKU

—2009年—秋号 Vol.73
Autumn 2009

美術博物館の展覧会

トリック・アートの世界 ー視覚の迷宮へようこそー

開催中～9月23日［水・祝］　会場◎1階1～3展示室　※9月21日［月・祝］は開館

チャック・クロース〈フィル II〉1982年

【トリック・アートとは？】

厳密にトリック・アートの定義はありませんが、本展カタログに寄稿いただいた加藤哲弘氏（関西学院大学教授）によれば、トリック・アートには3つの解釈があるということです。ひとつは本物そっくりに描くトロンプルイユ（だまし絵）で、西洋では古来からこの伝統があります。二つ目は観光地によくある「トリック・アート美術館」の展示物で、アミューズメントを大衆に提供するもの。最後に「イメージの画一化に反抗しながらヒトの視覚構造や視覚習慣に大胆に挑戦する」モダン・アートにみるトリック・アート。本展はこの第3のカテゴリーにあたり、戦後美術にみるトリッキーな作品を「虚と実をめぐって」「オプ・アートとライト・アート」「スーパー・リアリズム」「古典絵画をめぐって」の4つのセクションで紹介します。

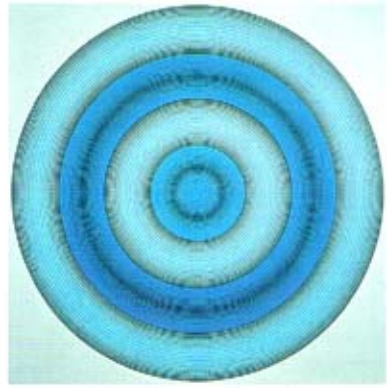
【展覧会をより楽しむために】

★のぞく、近づく、角度を変える…鑑賞者の見る姿勢や発見によって様々に形が変わるアートとの出会いには誰もがわくわくすることでしょう。予備知識がなくても、純粋に作品と向き合い、楽しむことができる作品を集めました。

★子供向けのワークシートでクイズを通して作品に親しんでください。

★エントランスホールでは錯視効果をねらった看板がお出迎え。裏にも仕掛けがあります。

★森村泰昌版ゴッホ《自画像》にちなんで、ゴッホの顔出しパネルを設置。パネルから顔を出せば、あなたもゴッホに？写真を撮ってお楽しみください。



桑山タダスキー〈円 D138〉1966年
いずれも高松市美術館蔵

開館30周年記念　三遠南信交流展
「ミュージアム・サミット 美の競演」

10月10日［土］～11月15日［日］　会場◎1階1～3展示室、2階1・2・4・5展示室

菱田春草〈春秋〉明治43年　飯田市美術博物館蔵

平成21年度から23年度にかけて、三遠南信エリアの将来像を考えるサミットが、豊橋・浜松・飯田の3市で開かれます。このサミットにあわせ、豊橋市美術博物館・浜松市美術館・浜松市秋野不矩美術館・飯田市美術博物館の所蔵美術作品の中から、選りすぐりの絵画を一堂に集めて公開する初めての試みが実現します。題して、三遠南信交流展「ミュージアム・サミット 美の競演」。

その口火を切る記念すべき本展では、横山大観《月あかり》・菱田春草《春秋》（飯田市美術博物館）、岸田劉生《赤土と草》（浜松市美術館）、秋野不矩《平原》（浜松市秋野不矩美術館）に加えて、中村正義《女》・星野眞吾《赤い生贄》（豊橋市美術博物館）など100余点を全館に展示し、それぞれの館の個性をわかりやすくご紹介します。

◎**学芸員リレートーク**　日時：10月11日［日］午後2時～
◎**美術講座「三遠南信の美術交流」**　日時：11月7日［土］午後2時～
◎**ボランティアガイド**　水・木・土・日（ただし、10月10・11日、11月7日は除く）13:30～／14:30～

旅人の風景 ー館蔵浮世絵展ー

9月5日[土]～9月27日[日]　※9月21日[月・祝]は開館、24日[木]は休館

歌川広重〈伊勢参宮 宮川の渡し〉

浮世絵版画は、江戸時代後期に歌川広重が登場し、美人画や役者絵にかわって風景版画が主流となり、東海道をはじめとする街道や諸国の名所などが描かれました。これらの風景版画には、風景にあいまって旅人の姿が描かれ、往時の風俗や習慣などを読み取ることができます。

江戸時代には東海道などの街道が整備され、多くの人々が旅に出ました。江戸と国元を定期的に往来する参勤交代の大名や、伊勢参りなど社寺参詣や温泉地への湯治に赴く庶民、旅を生業とする芸能民など、街道は旅人でにぎわいをみせました。

この展覧会では、館蔵の浮世絵版画から歌川広重の作品を中心に展示します。画の主題であった風景とともに、旅人にとって難所であった川越えや関所を行く様子や、旅の楽しみであった各地の名物を食べる旅人の姿をご鑑賞ください。

ー装身具の美ー　印籠・煙草入れ・髪飾りにみる江戸の装い

10月10日[土]～11月15日[日]　※10月12日[月・祝]は開館、13日[火]は休館

今では"携帯"といえば携帯電話をさす時代であり、私たちはそこにストラップなどの飾りをつけて楽しんでいます。また、装飾品としてのアクセサリーは多種多彩で、じつに様々なものがあります。江戸時代の装身具はどうでしょうか。人々は、旅道具などすべて自分で持ち運んだため、荷物の小型化、軽量化が図られました。また和服にはポケットが無いため、袋物・印籠・煙草入れなど収納性を備えた装身具が発達し、根付や髪飾りも実用性の高い装身具として愛用されました。そこには現代のアクセサリーに勝るとも劣らない精巧な装飾が施され、当時のおしゃれに対するこだわりを見出すことができます。

本展では、綿半野原コレクション(飯田市美術博物館)の印籠・根付、木下コレクション(掛川市二の丸美術館)の煙草入れ、同じく木下コレクション(島田市博物館)の櫛、かんざしを中心に、江戸から明治の装身具の世界をご紹介します。

いずれのコレクションも、まとめて他館で公開されるのは初めてのことです。ぜひこの機会にご鑑賞ください。

写真　左上:〈秋草散らし文様蒔絵象牙櫛・笄〉島田市博物館蔵
右上:〈秋草蝶虫蒔絵印籠〉飯田市美術博物館蔵
下:〈金唐革腰差したばこ入れ〉掛川市二の丸美術館蔵

◎記念講演会&ギャラリートーク

講師:池田恵美子さん(掛川市二の丸美術館学芸員)
演題:江戸・明治の総合芸術品「煙草入れの愉しみ方」
日時:10月25日[日]午後2時～　定員:50名(要申込、先着順)
参加費:要入館料
申込み:10/4[日]から電話で受付(TEL.41-8580)
＊煙草入れや煙管を実際に手にとって、仕組みをご覧いただく予定です。

◎その他イベント案内

二胡の演奏会　9月19日[土]午後3時～
大名行列　11月8日[日]

友の会の会員拡大を考える

昨年度の「豊橋市美術博物館の現実と課題」に続き、今年度のテーマは「豊橋市美術博物館友の会の方針と行動」です。「友の会」は何を目指し、何処へ行こうとしているのか、具体的にどんな取り組みをしているのか、するべきなのか、会員の皆様と共に考え行動していきたいと思います。会員の数は行動のエネルギーであり、影響力、資金力でもあります。なぜ会員数は減り続けたのか、会員であることの魅力は何なのか、どれだけの会員数を確保すれば前に進むパワーは生まれるのか、打つべき手立ては何か、思い切って核心に迫りました。

1）発足以来の会員の変遷

友の会「ここ数年、会員数は600人前後で推移しています。長い目で見ると減っていますね。」

「『風伯』の創刊号に、半年で1000人集まったと書いてあるんです。いろんなものがなかった時代、美術博物館が新しくできた、今まで芸術を扱う施設がなかった。そういう新鮮な魅力があったのではないでしょうか。」

「今年友の会の理事に、新しく加わっていただいた方もあるので、若い人にも大いに声を掛けてもらえるとよいと思います。」

「一年目は声をかけてお願いすると入ってくださるんですが、二年目になると忘れてしまって、更新手続きをしない人が多いんですよね。それを解消するために自動振替も研究したけど、条件が多くて実現できませんでした。」

「《ターナーから印象派へ展》の会期中、理事が玄関ホールで会員の勧誘活動をやったけど、ほとんどの方が友の会の存在を知らない。頻繁に館を利用している方でも知らない方が多いことに驚きました。」

「今回来て下さる方は、岐阜県、三重県、名古屋、日進、岡崎、知多半島、浜松など、遠方の方が多いですね。友の会の案内をしていると来館者のリサーチにもなります。」

「展覧会に魅力があると思えば来てくれるんですね。遠くに住んでいる方でも情報をつかんでいる。昨年の《上村三代展》もやっぱりそうでしたからね。」

学芸員「今回の展覧会は『ぴあ』にカラーで大きく取り上げていただきました。」

友の会「中日新聞の記事も東三河版じゃなくて、県内版だったよね。」

「今回の企画展もとてもいいので、本来だったら豊橋市民が、あ、こんな企画を待っていたのよって、どっと押し寄せてくださるといいのだけど。」

「遠方から観に来るということは、豊橋市の観光としても効果のあることなんだよね。どうやったら豊橋に観光客を集められるかって、必死になっているんだから。」

学芸員「美術というのは広域の事業だと思いますね。市が運営していますけど、お客さんは市外からも大勢いらっしゃる。」

友の会「遠くからでもそのためには来ちゃうという吸引力ってすごいよね。企画によってありうるんだなって。」

2）友の会会員のメリット

友の会「今年度の場合、観覧料を合計すると、二川本陣の入館料も含めて2700円。3000円の会費で『風伯』も4回発行されて、実質的には3500円くらいの価値があってお得ですよ、っていう言い方ができるのかな？」

「損得は別にして、研修旅行に行きたいからとか、コンサートを聴きたいから入会するという方もいますよね。美術博物館で、本物の絵の前で音楽が聴けるというのはグッとくる感じがするね。」

「たしかに講演会やコンサートなど、会員限定の特典もあるんだけど、観覧料だけで計算すると割に合わないから入会しないという方もあるんじゃないですか。」

「でも美術や音楽などの文化事業って、採算性とか利益追求とは一致しないところがありますよね。」

「会員になると自分にとってお得な点もあるけど、美術博物館の応援もしてほしい。つまりサポーターになってほしいってことだよね。」

「メリットとか経済的な尺度だけでは、絶対こういうものって価値が測れないと思うんですよ。」

「豊橋市美術博物館友の会の方針と行動」 その1

「ところで、観覧料ってどうやって決めるんですか？費用の１％とか？」

学芸員「巡回展の場合は他の開催館とも協議しますが、豊橋市の場合、一般の観覧料は条例で1000円以下、児童・生徒は400円以下と決まっています。」

友の会「今は大きな展覧会は1200円くらいが多いですよ。」

学芸員「特に大都市では1000円以上の展覧会も多いですね。展覧会にかかる経費を観覧料などでまかなうわけですが、全体の経費の額によって料金を検討します。」

友の会「1000円とか800円とか600円とかありますよね。価格によって観客の入りが変わるということはあるんですか？」

学芸員「安ければ人が入るというわけではないですし、金額は関係ないと思いますね。物量的に全館使うような展覧会は1000円いただいたり、１階だけとか２階だけのスペースを使うときは、内容に応じて500～800円で設定することが多いですね。」

３）今後の取り組み

友の会「今年度は、賛助会員を積極的に開拓していこうと、お願いの手紙を出しました。去年は24口でしたが、今年は50口以上になると思います。賛助会員が増えれば資金に余裕ができるし、新しい事業もできるんじゃないでしょうか。」

「それともう一つ、資金が潤沢になれば、地元の作家を育てるとか、若い人たちに芸術を楽しんでもらう事業を行いたいですね。もともと、若い人に美術博物館に来てもらおうと考えて高校生会員を作ったんです。それから大学生、各種専門学校生への対応も課題ですね。今後、大学生、料理学校や美容学校の学生さんにも学生会員として入会してもらう。高校生と同じ会費1500円でね。不足額を賛助会員の皆さんに援助してもらいたいという考えもあって、今賛助会員を募集しているんです。」

「そのためには、どのくらいの会員数が必要なんでしょう?」

「金額に換算して今、予算が250万円くらい。これが500万円を超えればいろんなことができますね。」

「会員限定のイベントなど、プレミアムな特典をさらに充実できると魅力的だし、二川宿本陣資料館もたくさんの企画展があるから、会員証で何回も入館できるようになるといいね。」

４）魅力ある館と友の会の姿

友の会「やっぱり、年度初めだけじゃなく、つねに会員を増やそうという気持ちで、一年中会員拡大の意識を持って活動することが大事。市民に周知されていないということが問題なので、知らない方にアピールする方法を研究しなくては。」

「今年度、賛助会員が入ってくださったら、子供たちにこういうことができました、と大いに報告できるようになるといいですね。」

学芸員「館としては、何はともあれ、魅力的な企画展を開催するに尽きます。魅力ある展覧会を開催すれば、会員は増えていくと思います。それはどんな展覧会か、というのは難しいですけれども。地方美術館の使命として、地元作家も発掘していかなくてはいけないですから。それと並行して、一般の方に好まれる展覧会も開催して親しんでもらうことも必要だと思います。」

友の会「11月３日の開館30周年記念のシンポジウムは、《魅力ある美術館とは》というテーマで、女優の真野響子さんの講演と、豊橋、浜松、飯田の各美術館館長などによるパネルディスカッションを行います。友の会員の席も用意しますので、大勢の方にご参加いただきたいと思います。この機会に、友の会ができたとき1000人が集まったような勢いで会員を増やしたいですね。」

会員拡大はどうしても会員の特典を考えることになる。3000円の会費に対して有料展３回無料など経済上のメリットがそれ以上にあれば、入会するほうが得だということになる。しかしそれだけでいいのだろうか。

不特定多数の会員になるのではなく、意思と人格を持った会員として、美術博物館のあり方や友の会の運営に関わり、サポートし、より深く芸術と関わりを持つことに歓びを感じるような、そんな友の会のあり方、会員としてのあり方は考えられないだろうか。

あなたはなぜ友の会の会員なのですか。

あなたは友の会の会員であることに歓びを感じていますか。

あなたは周りの人を友の会に勧誘したことがありますか。

あなたのご意見をお聞かせ下さい。

（風伯編集部）

※８月14日現在の会員数は、正会員379、風伯会員66、高校生会員20、特別会員64、賛助会員61、合計590です。

ー春の研修旅行に参加してー

友から友へ Members to Members

金沢21世紀美術館にて

石田睦子(615)

バスから一歩足をおろすと、「ワアッ」とつい声を出してしまいました。緑の美しい芝生の向こうに大きな円形のガラスの建物が広がっているのです。私の楽しみにしていた美術館。胸をワクワクさせながら入口に向かうと、奇妙な大きなラッパのような物が2個立っていました。これも作品の一つかしら？

館の中へ入って最初の部屋、真っ暗です。これなに？何なの？と、目をパチクリしていると、見えました、台の上に作品が。また次の部屋も暗闇、やはり目が慣れると、壁に大きな楕円形が映っていました。右から左へ歩いてみると、その楕円が私について右から左へと傾いて動いてきます。

明るい庭では、いくつものプランターで瓢箪を育てていました。足元には去年の瓢箪が数個あり、これを集めて笛など楽器を作り演奏する、《栽培からはじめる音楽》という夢のような作品です。緑と光でとても気持ち良い空間でした。

次に《スイミングプール》へ。部屋へ入ると突然水の中です。真っ青な壁に水のゆらめきが映り、本当の水の中にいるようで、思わず泳いでしまいました。上を見ると光が水に反射して、キラキラ光り、水がユラユラ揺れていて、とてもすてきな感じ。その向こうに人がぼんやり見えるのも面白い。

ある部屋では、塩で迷路が作ってありました。なぜ塩で迷路なの？また、水槽にトマトやピーマンなどが入れてあり、《浮く物、沈む物》。どんなメッセージがあるのかしら？私は形式にこだわらない現代アートの理解力の無さを強く感じました。

この美術館は、静かに作品を観る普通の美術館とは雰囲気が全然違いました。子供たち、親子連れ、若者同士、にぎやかに楽しそうにしていて、憩いの場という感じでした。視察に来られたルーブル美術館の館長も感激されたそうです。私はこの美術館へまた行って、ゆっくり作品に触れて現代人に近づきたいと思っています。

人はなぜ美術館に行くのか。 ー石川県立美術館ー

冨田　円(272)

何かを得るという探求精神とともに、新しい出会いを求めて人は美術館に行く。

今回の研修旅行で訪れた石川県立美術館は、展示作品の量も充実して会場風景は壮観であり、一つ一つをじっくり見ると時間内に見切れないのではと思う程だった。石川、金沢関連の作品を集めた収蔵作品が多く、キュレーターが国宝の《色絵雉香炉》を紹介している際など、パリにあるルーブルの《モナリザ》のように、「これこそが石川の美術である」と言い切るような潔さがあり、淡ましくも感じる。

開催していた企画展「日本近代美術の精華」も、東京藝大美術館のコレクションを中心に金沢ゆかりの作家作品で構成するという徹底ぶりで、その中には没後50年を迎え今年からパブリック・ドメインになった同校一期生である横山大観の卒制作品も含まれており、楽しく鑑賞できた。

同館の前身となる石川県美術館は、金沢出身の建築家、故谷口吉郎氏の設計により昭和34年に建設されたが、現在は伝統産業工芸館となっている。現在の美術館は昭和58年に新築され、25年を経た昨年リニューアルオープンを果たした。最新の空調設備、エントランスの豪快な開口からの明るい採光に加え、新たに石川県出身のパティシエ辻口博啓氏のパティスリーとカフェが併設されている。そこには幅広い年代の人達が行き来しており、美術館で膨大な作品を見たあと中休みしている人や、近所の主婦と思しき人が、ゆったり緑を見ながらのんびり過ごしていたのが印象的だった。

若い人向けに、地元の工芸品や作品の理解を深めるギャラリートークやツアーを頻繁に、兼六園のボランティアスタッフのように市民と共同企画すれば、もう少し若年層にも定着しそうな気がした。伝統と文化を重んじる金沢らしい、自信と威厳のある、しかし開かれた美術館であった。

美術博物館開館30周年記念・三遠南信交流展「ミュージアム・サミット 美の競演」関連事業

シンポジウム「魅力ある美術館とは」

11月3日[火・祝]午後1時30分～　場所◎豊橋市公会堂

《第1部》 基調講演
「私の空想美術館」 真野響子さん(女優)

《第2部》 パネルディスカッション
◎パネリスト
真野響子さん
金原宏行さん(豊橋市美術博物館長)
増田幸雄さん(浜松市美術館長)
滝沢具幸さん(飯田市美術博物館長)
神野吾郎さん(サーラコーポレーション代表取締役)
◎コーディネーター
富山秀男さん(美術評論家・前ブリヂストン美術館長)

豊橋市美術博物館と友の会の共催により、上記のシンポジウムを開催します。
※賛助会員は5名まで、特別会員は2名まで、それ以外の会員は本人様のみお申込みいただけます。
※締切:9月30日　※定員:先着200名

■申込方法
返信先明記の往復ハガキで、会員番号、参加者の氏名、郵便番号、住所、電話番号をご記入のうえ、下記までお送りください。

〒440-0801
豊橋市今橋町3-1
豊橋市美術博物館
「シンポジウム」係

■往復ハガキの記入例

往信 440-0801		返信 郵便番号	
豊橋市今橋町3の1 豊橋市美術博物館 「シンポジウム」係		自分の住所と氏名	①会員番号 ②参加者氏名(全員) ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号

賛助会員のお名前を館内に掲示させていただきました!

※今年度ご入会いただいている賛助会員は下記のとおりです(入会順)。記して御礼申し上げます。

中部瓦斯㈱豊橋支店・管財㈱・神野建設㈱・中部瓦斯㈱・学校法人 藤ノ花学園・㈱サーラビジネスソリューションズ・共和印刷㈱・松井慶夫・㈱スミ電機工業所・㈱みなと・網太㈱ ・㈱東三建設・イシカワ㈱石川顕次・又平法律事務所・ダイハツ豊橋㈱・学校法人 高倉学園・豊橋信用金庫総合企画部・特別養護老人ホーム作楽荘・杉本屋製菓㈱・谷山建設㈱・日本放送協会名古屋放送局豊橋支局・向山デベロッパー・医療法人社団一誠会 滝川病院・㈱豊川堂・豊鉄観光㈱・老人保健施設ベルヴューハイツ・㈱三光製作所・ガステックサービス㈱・東亜同文書院大学記念センター・アーチザン・ワルツ㈱・医療法人社団 三遠メディメイツ・㈱花田工務店・村田小児歯科・高誠堂・医療法人慈豊会 大島整形外科クリニック・㈱藤城工務店・㈲若松園・朝日新聞豊橋中央販売㈱・青山建設㈱・旭精機㈱・㈱荒木石油店・井口土建㈱・豊橋才能教育幼稚園・㈱ビオック・福祉村病院・㈱豊橋園芸ガーデン・㈱丸金商会・㈱精文館書店・mixs.・豊橋塩業㈱・㈱物語コーポレーション・医療法人常念会 権田脳神経外科・サーラフィナンシャルサービス㈱・サーラ住宅㈱・㈱メガネ流通センター・㈱イデアル・アトレ・宗教法人 円成寺・㈱大仙額縁事業部・アイセロ化学㈱・大三紙業㈱・㈱小倉屋　(8/14現在)

収蔵品紹介

[昆虫の街T]

大島哲以●OSHIMA,Tetsui
1974年　麻布、アクリル　71cm×115cm
平成16年度購入

名古屋に生まれた大島哲以は幻想的な作風で知られます。1972年には文化庁研修員として1年間滞欧し、ウィーン工芸大学でウィーン幻想派のフッターやフックスから指導を受け、よりいっそう幻想的な傾向を深めました。帰国後は中村正義・星野眞吾らと从会を結成。人間社会に渦巻くさまざまな問題をアイロニカルな視点でとらえ、動物や花と融合した人物たちが登場する甘美で残酷な世界を築き上げました。

この《昆虫の街T》は「街シリーズ」の1点で、中央に白い街並みと漆黒の空を展望する空間をつくり、近景の森には人と合体した昆虫たちが配されています。一見、花が咲き乱れるファンタジックな世界ですが、画面左では甲虫が羽の生えた裸婦をとらえ、右では豊満な下腹部を持つカマキリ女がカマをふりあげ、さらに交尾をする蝶や花の蜜を吸うミツバチを散りばめるなど、随所に淫靡なモティーフが仕掛けられています。そうした虫たちの饗宴から一線を画しているのは、西洋人形のようなコスチュームを着た妻の姿と、中央に立つ蝶の頭の人物(作者自身をあらわしたとされる)でしょうか。樹上の妻の腹部からこぼれ落ちる青い珠には幼虫が成育してゆく姿が透けて見え、中央の青い蝶に至る生命のサイクルを成しています。

当初、日本画を学んだ大島は和紙に岩絵具などで描いていましたが、70年代には本作のようにキャンバス上にアクリル絵具で緻密な描写もみせました。極力色味を抑え、黄色を基調に淡いブルーや白い町並みが映える繊細な表現で、生々しい生態系をひとつの絵物語のようにまとめあげています。

この作品は「リアルなフィクション～異世界へようこそ～」と題した今期の常設展(9/27まで)で、大島の《カッパドキアの高原にて》《贖罪》の2点の他、星野眞吾、野田弘志らの作品とあわせて紹介しています。ここではない、何処か違う異世界へ、どうぞ足を踏み入れてみてください。

(豊橋市美術博物館学芸員　丸地加奈子)

編集後記

「ターナーから印象派へ」展の会期中に友の会の役員は手分けしてロビーで入会の勧誘活動を行った。最初は入り口正面に机を置き、張り紙をして椅子に座っていたらまるで反応なし。作戦を変え、パンフレットを持ってこちらから声をかけ、近づいていくことにした。駅や街頭ではなく、素性も知れた友の会の勧誘なのに、それでも警戒心をあらわにされて通り過ぎていかれてしまう。顔付きが悪いのかと考え込みながら、務めてにこやかに優しい声を心がける。反応を示してくれた人に限って大阪、岐阜、静岡など地元の人ではなかった。友の会の活動内容や会員になることの価値や楽しみを、多くの人に広く伝えるにはどんな方法があるのかと考えさせられた。

もう一つ気がついた。「おはようございます」「こんにちは」と声をかけてキチンとあいさつを返してくれる人の少ないことだ。ターナーを見ることで頭は一杯になってしまっているのかな。日本人は変わってしまったのかな。

(鈴木伊能勢)

【表紙作品】
三尾公三《シーレの部屋》
1989年　板、アクリル　160cm×120cm
豊橋市美術博物館蔵
「トリック・アートの世界」展より

豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第73号
編集・発行　豊橋市美術博物館友の会
会長　宮田正人
担当副会長　神野能生子
編集長　鈴木伊能勢
編集委員　福島陽子　金田順子
協力　豊橋市美術博物館
〒440-0801 豊橋市今橋町3-1　TEL.0532-51-2882
平成21年8月20日発行(5月・8月・11月・2月各20日発行)
平成10年3月17日　第3種郵便物認可 定価200円
※会員は会費に含みます。※定価には消費税が含まれます。